

チェック
check

最近のニュース等からマンション管理に関する情報をご紹介します

マンション管理 最近の動向

マンション管理士 飯田太郎

各地で地震が頻発

首都直下地震の発生確率は30年以内に70%

連休中の5月5日、能登半島で最大震度6強の地震が発生、続いて11日の明け方、千葉県南部を震源とする最大震度5強の地震が発生しました。この他にも八丈島の近くやトカラ列島（鹿児島県）近く、さらに豊後水道（愛媛県）など、地震が各地で頻発しています。今年には1923年に関東地震が発生してから100年。地震への備えが十分かどうか、改めて確認しましょう。

地震への備えが必要な理由の一つが、マグニチュード（M）7クラスの首都直下地震が、30年以内に70%の確率で発生すると言われていることです。これはどういうことなのか？この機会に確認します。

1995（平成7）年1月に発生した阪神・淡路大震災をきっかけに、わが国の地震調査研究を一元的に推進するため、地震防災対策特別措置法に基づき、政府の特別な機関として地震調査研究推進本部が設置されました。その業務の一環として同本部の地震調査委員会が「全国を概観した地震動予測地図」（2008年版）を発表。その中で首都直下地震の発生確率を30年以内に70%としました。これは最新の2020年版にも引き継がれています。

南関東でM8クラスの巨大地震は過去に何回も発生していますが、比較的正確な記録が残る江戸時代以降は、1703年と1923年の関東地震が知られています。この2つの巨大地震は、陸側のプレートに海側のプレートが沈み込む相模トラフ周辺で発生しています。

M8クラスの巨大地震は、1923年の関東地震発生からまだ100年程度しか経っていないため、近い将来再び発生する可能性は低いと考えられています。しかし、2つの巨大地震の間の約220年間には、M7クラスの地震が多数発生しています（図参照）。地震調査研究推進本部地震調査委員会は、これを基に南関東でM7クラスの地震が今後30年以内に起きる確率は70%という予測をしています。

（注）M6の地震エネルギーを1とすると、M7の地震は32、M8の地震は1,000です。
Mが1つ上がると地震エネルギーは約32倍になります。

特に重要な、家具転倒防止と

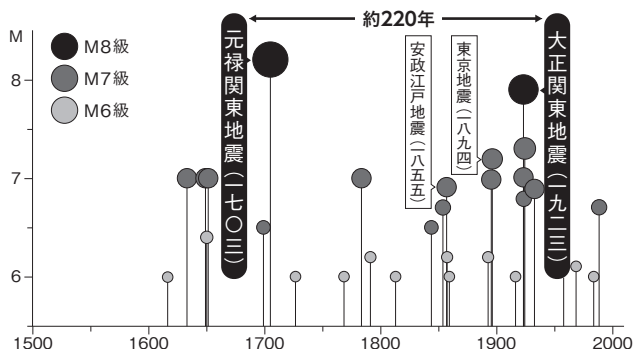
携帯用トイレの備蓄

エレベーター停止で困る災害弱者への支援も

地震が発生すると様々な被害に見舞われますが、マンション生活で特に怖いのは家具転倒やガラス等の飛散です。家具転倒防止やガラス等の飛散防止をしましょう。

生活に深刻な影響を与えるのは水道が使えないことです。特に困るのはトイレです。通水をしても排水管に支障がないことが確認できるまで、トイレの水は流せません。携帯トイレの備蓄は忘れがちですが、最優先で用意しましょう。

エレベーターが使えない不自由さは、特に高齢者世帯を直撃します。日頃からマンション内の要支援者を把握し、管理組合として要支援者名簿を作成し、支援できるようにしましょう。



※地震調査研究推進本部「首都圏の大地震の姿」を参考にしました。
https://www.jishin.go.jp/resource/column/aug_shuto/



飯田太郎（いいた・たろう）
マンション管理士
（株）TALO都市企画代表

老朽化マンションの再生や地域コミュニティ等についてコンサルティングを行っている
マンション管理に関する講演、著書多数